

ダメージによる失客を無くす
毛髪の限界値を高める毛髪強化剤

艶の
bca® matrix + α

弾力の
bca® matrix + β

bca® matrix + β を使って傷ませないブリーチ

ピーシーエーマトリックス プラスベータ

ブリーチ剤と併用するβの使用量

下記数値は

【ブリーチパウダー + オキシ】に対するパーセント

スタート髪状態	健康毛	カラー毛	ハイトーンカラー毛 ブリーチ毛
はじめてのブリーチ	β10%	β15~20%	β30%
ブリーチ2回目	β20%	β20%	β30%
ブリーチ3回目 または、それ以上	β30%		

リタッチブリーチの時（綺麗なジョイントにする為に）

① βを金髪部のジョイント2cm 幅くらいで塗布する
※できるだけ乾かすと、より良いです

② 新生部に、目安量を配合したブリーチ剤を塗布する

βを併用することで

- 毛髪強化しながら、ブリーチができるのでより良い質感のブリーチ毛を作ります
- つややかで、指通りが良くきしみのない質感のブリーチが可能
- 毛髪が強化されるので、ブリーチを繰り返せる
- ブリーチ後のカラーもしっかり発色
- ブリーチ後のパーマが簡単にできる

2017.7.27

健康毛に初めてのブリーチ（30分）

Before β10% 他社 β10% 他社 全頭α20% 微アルカリカラー

β10% 他社

ブリーチ剤水洗後 トリートメント無し 専用トリートメント有り

2017.9.27

同じ髪に2回目のブリーチ（30分）

Before β20% 他社 β20% 他社

β20% 他社

ブリーチ剤水洗後 トリートメント無し 専用トリートメント有り

2017.10.06

同じ髪にホット系パーマ1回目（この時の前処理・薬剤は左右統一）

Before ベースがβ使用のブリーチ毛 ベースが他社製品使用のブリーチ毛

ベースがβブリーチ毛 ベースが他社ブリーチ毛

2017.10.18

同じ髪にホット系パーマ2回目（この時の前処理・薬剤は左右統一）

ベースがβ使用のブリーチ毛 ベースが他社製品使用のブリーチ毛

ベースがβブリーチ毛 ベースが他社ブリーチ毛

社内研修用資料

ダメージによる失客を無くす
毛髪の限界値を高める毛髪強化剤

艶の
bca® matrix + α

弾力の
bca® matrix + β

bca® matrix + α bca® matrix + β を使って髪が元気になるカラーリング

ピーシーエーマトリックス プラスアルファ

ピーシーエーマトリックス プラスベータ

カラー剤と併用するαβの目安量

下記数値は

【カラー + オキシ】総量に対するパーセント

※ 前処理では、使用しません

※ ハイダメージ毛は、20%のうち半分の10%をβにすると、より髪が補修強化されます。

塗布の場所 元毛質	新生部 / 既染部 ノンダメージ ライトダメージ	既染部 ミドルダメージ ハイダメージ
細毛・軟毛	β10%	β20%
普通毛	α10%	α20%
硬毛・剛毛	Aglaiα10%	Aglaiα20%

αβの効果的な併せ使い

αとβを併せて使用することで、

【艶と保湿の+α】と【弾力の+β】の2つの効果を与えることができます。

※ Aglaia + α は、硬毛・剛毛向きです

毛質	艶 + 保湿のα と弾力のβ どちらの効果も欲しい場合	
細毛・軟毛	保湿 bca matrix + α	弾力 bca matrix + β
硬毛・剛毛	高保湿 Aglaiα + α	弾力 bca matrix + β

αβを併用することで

- 状態の悪い髪も毛髪強化しながらカラーができるので、色ブレ、濁りもなくしっかり発色させられ、より良い髪の状況に導きます。
- 艶やかで指通り良く、きしみのない質感のカラーが可能になります。色持ちも良くなります。
- 毛髪が強化されるので、白髪染めを繰り返しても髪が痩せなくなります。
- 既染部だけでなく新生部にも毛髪強化しながらカラーができるので、ダメージが進まなくなり、後日のパーマやストレート施術が容易になります。また次回のカラーリング時にディバイディングラインが、出なくなります。

Before

<モデル髪状態>

軟毛毛質のクセ毛。

ハイトーンカラーのダメージでパサつき感が目立つ。更に髪の弾力がなくなりペチャンコに・・・



ブリーチウィービング&カラー放置中

- ブリーチ総量 10g に、β20% 【2g】 を配合して塗布
- 新生部のカラー総量 20g に、β10% 【2g】 配合して塗布
- 既染部のカラー総量 30g に、艶と弾力を与えたいので α10%+β10%合計で20%になるよう【α3g+β3g】を配合して塗布

After

<仕上がり髪状態>

ブリーチ部も含め全体的に艶と弾力がアップし、髪に本来のハリが戻った。カラーも綺麗に発色。

ダメージによる失客を無くす
毛髪の限界値を高める毛髪強化剤

艶の
bca[®] matrix + α

弾力の
bca[®] matrix + β

bca[®] matrix + α bca[®] matrix + β を使って毛髪強化しながら保湿力アップで潤艶カール

前処理 ダメージに応じて塗布してください。 ※ビビリやすくゴム跡がつきやすいフェイスライン・もみあげ・襟足などの産毛には、αβいずれかを塗布して毛髪強化します。

髪状態	健康毛	トップ・フロントのみ 加齢に伴うやせ毛 カラー無し パーマ無し	ワンカラー毛	白髪染め 繰り返し毛 トップ・フロント が細毛軟毛に	毛先のダメージ		
					カラー・パーマを 1~2回	白髪染め・ カラー・パーマを 3~4回	ブリーチ・矯正 ホームカラー・ パーマ・アイロン 重複ダメージ
ダメージ	ダメージ差 無し	やせているが ダメージ差は無し	少しやせているが ダメージ差は無し	ハイダメージ	ライト ダメージ	ミドル ダメージ	ハイ ダメージ
前処理	前処理 無し	前処理 無し	前処理 無し	トップ・フロント に βを塗布	毛先に αを塗布	毛先に α:β=1:1 を塗布	毛先に βを重ね塗り

1液への配合量 ダメージに応じて、配合してください。

元毛質	細毛軟毛 剛毛硬毛	健康毛	ダメージ差無し	少しやせているが ダメージ差は無し	ハイダメージ	ライト ダメージ	ミドル ダメージ	ハイ ダメージ
		bca matrix +α 3%	bca matrix+α 10%	bca matrix+α 10%	bca matrix+α 10~15%	bca matrix+α 10%	bca matrix+α 10%	bca matrix+α 15%
		Aglaiia +α 3%				Aglaiia+α 10%	Aglaiia+α 15%	

αβを併用することで

- ダメージに応じた前処理を行うことで、かかりむらを無くし均一なリッジを表現します。
- かかりやすく、傷みやすい産毛にも前処理をすることで『ゴム跡がつかないように・ビビらないように』毛髪強化して細部まで質感の良いパーマを提案できるようになります。
- 1液に配合することで、状態の悪い髪も毛髪強化しながらパーマができ、乾いた時にも髪内部に保湿力が維持できるようになるので、ウェーブダレが起きなくなります。
- 健康な部分に塗布するパーマ液にも配合することで新生部ダメージが進まなくなり、次のカラー施術時にカラーのディバイディングラインが出なくなります。

軟毛に近い普通毛で、毛先にパーマ残が有るライトダメージ毛。毛先をケアしながら根元からしっかり立ち上がるパーマスタイルを。

Before  **After** 

NEO ANION 13,15,17mm使用 GP中心に放射状にスパイラル

①毛先のライトダメージにはbca matrix+α
②パーマ液1剤には、bca matrix+α 10%配合

ロッドOUT水洗後

剛毛の健康毛と毛先ガリガリ部をケアしながら根元からしっかり立ち上がるパーマを。

Before  **After** 

①毛先のミドルダメージにはα+βを前処理
②新生部にチオ塗布後フィンディング
③元毛質が剛毛なので、全体にかけけるシス系の1剤には、Aglaiia+αを15%配合し全体に塗布

白髪染め繰り返し + 細毛軟毛のペチャンコになりがちな髪にも、簡単に弾力アップパーマを。

Before  **After** 

①トップ・フロントの細毛軟毛に、βを前処理で塗布
②フィンディング
③パーマ液1剤にbca matrix+αを10%配合

ダメージによる失客を無くす
毛髪の限界値を高める毛髪強化剤

艶の
bca[®] matrix + α

弾力の
bca[®] matrix + β

bca[®] matrix + α bca[®] matrix + β を使って毛髪強化しながら軟化を促し潤艶ストレート

前処理 前処理の考え方の基本はパーマ時と同じです。ダメージに応じて塗布してください。

髪状態	毛先のダメージ			フェイスラインなど産毛
	カラー・パーマを 1~2回	白髪染め・カラー・ パーマを3~4回	ハイトーン・ホームカラー パーマ・アイロン 重複ダメージ	全ての髪に前処理行う αβいずれかを 産毛に なでつけるように塗布
ダメージ	ライトダメージ	ミドルダメージ	ハイダメージ	
前処理	αを塗布	α:β=1:1を塗布	毛先に βを重ね塗り	

1液への配合量 過膨潤しないように毛髪強化しながら、しっかりと軟化を促す為にダメージに応じて、配合してください。

髪状態	健康毛	ライトダメージ	ミドルダメージ	ハイダメージ
		カラー・パーマ 施術歴1~2回程度	カラー・白髪染め・パーマ 施術歴3~4回程度	ハイトーン・白髪染め ホームカラー・パーマ・ アイロンなど重複ダメージ
元毛質				
細毛・軟毛 のクセ	α5%	α10~15%	α10%+β10%	α15%+β15%
硬毛・剛毛 のクセ	α3%	α10%	α20%	α30%

αβを併用することで

- ダメージに応じた前処理で、髪の状態を均等にしてジョイント部のダメージや伸びムラ防止に。またスタート状態が均等になるため、ワンタッチで薬剤を塗布できる環境を増やし、施術効率を助けます。
- 1液に配合することで毛髪強化しながら軟化を促すことができるので、髪の過膨潤がなくなります。そのためカラーやブリーチのくせ毛も毛髪強化しながら質感の良い縮毛矯正が提案できるようになります。
- ダメージ部だけでなく新生部の1剤にも配合することで、リピート時には既ストレート済み部になったジョイント部のダメージが心配なくなります。またカラーリング時にディバイディングラインが、出なくなります。

過膨潤しやすく、伸びづらいのに、ダメージしやすいクセ毛のストレートも毛髪強化しながら、軟化を促せるので、軟化するまでに必要な時間を放置できるようにするため、質感のよい仕上がりを提案できるようになります。

モデル : 産後で、髪質は細毛軟毛。全頭、縮毛矯正は未経験。
毛髪状態 毛先まで全てクセ毛の状態。新生部はカラー無しの健康毛。中間は、ミドルダメージのカラー毛。毛先は、ハイブリーチで、絡みやすい。

Before  **After** 

- ① 前処理 (カラー部~毛先) α:β=1:1 塗布
- ② 前処理β上塗り (毛先) ※フェイスラインなどの産毛には、前処理の残りを塗布
- ③ ストレート①液にα5%配合して新生部に塗布
- ④ ①液にα10%+β10%を追加配合して、カラー部~毛先部まで塗布
- ⑤ 放置後、水洗。完全ドライ後、毛先まで180℃アイロンスルー
- ⑥ ②液塗布放置後、水洗 ※ノートリートメントハンドドライの仕上がりです。

※使用薬剤
AWSB オールウーマンシスターズバンド